

自治基本条例の 評価・検証を求む



町長

時世に応じた検証は
重要である

三友美恵子



住民と協働したまちづくりを

質問

住民・議会及び町が協働してまちづくりを進めていくことを目的とした「玉村町自治基本条例」が制定されてから、15年が経過した。条例には、「4年を超えない期間で見直しをしていく」とあるが、見直しをしているのか。

答弁

町長 平成23年度及び27年度に住民・議会・町行政内の意見集約を行い、当時は改正不要と結論が出た。その後、令和2年度に行われた総

合計画の見直しに伴い、条例改正を行った。

質問

協働の拠点である、住民サポートセンターは登録団体の高齢化が進行している。どのように考えるか。

答弁

町長 高齢化の進行は大きな問題であると認識している。団体の方からも、新メンバーの募集には大変苦慮していると聞いている。若年層の参加を促すため、SNSなどを使った啓発を行うとともに、関心を持ってもらえるような活動内容にシフトしていくことも重要だと考える。

質問

住民が町に愛着を持ち、協働して活動していくためには、情報発信だけではなく、住民と町との双方向によるコミュニケーションが必要ではないか。

答弁

企画課長 SNS等を活用しながら情報発信を行い、協働の働きかけをしていきたい。

質問

玉村町自治基本条例を評価・検証し、協働のまちづくりを進めてはどうか。

答弁

町長 時世に応じた見直しを行い、検証を行うっていくことは、重要であると考えている。

**高崎玉村スマートーC
周辺の開発について**

質問

高崎玉村スマートーC周辺地区に大きな開発が目白押しだが、玉村町への影響はどうか。

また、道の駅玉村宿の南側に予定されている現在調査中の観光交流拠点公園への影響はあるのか。

答弁

都市建設課長 しっかりと高崎市の情報収集しながら、進めていく。お互いにメリットがあり、地域の活性化が図れるような開発を行いたい。